

**令和7年第2回 岩沼市議会定例会
一般質問通告一覧表**

質問 順番	議席 番号	議員氏名	質問事項及びその要旨	答弁者
1	14	沼田健一	<p>1 岩沼市地方創生総合戦略について</p> <p>1. 第1期である岩沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略、第2期岩沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略との相違点はあるのか伺う。</p> <p>2. 岩沼市総合計画との整合性を考えていると思うが、総合計画を具現化しただけと理解していいのか伺う。</p> <p>3. 今までのPDCAサイクル検証委員会の評価をどの程度参考にしたのか伺う。</p> <p>4. 低い目標を設定し、実績値を出しやすいようにしているのではないのか伺う。</p> <p>5. 地方創生関連の国などからの交付金について、上限はあるのか伺う。</p> <p>6. 国の地方創生2.0で基本構想の5本柱が示されたが、岩沼市の総合戦略はそれが十分に反映されたものなのか伺う。</p> <p>7. 人口動態と移住定住の促進について、本市へ移り住みたくする施策や的確なシティプロモーション効果が期待できる具体的な戦略を伺う。</p> <p>8. 「学校を核とした教育機会の充実」について、主な取組における第2期の反省点と今後の具体的な取組について考えを伺う。</p> <p>(1) 学校教育目標推進事業について伺う。</p> <p>(2) 岩沼市に愛着を持つ人材育成事業について伺う。</p> <p>(3) 地域学校協働活動について伺う。</p> <p>(4) 学びの多様化に係る運営事業について伺う。</p> <p>(5) 小学校、中学校情報教育推進事業について伺う。</p>	市長 教育長
			<p>2 岩沼市内の宅地の陥没穴の発生について</p> <p>1. 岩沼市松ヶ丘地内宅地の一部陥没について、市はいつ把握したのか伺う。</p> <p>2. この件が発覚してから一次調査は県、二次調査は市で行ったが、その後の対応はどのようにしたのか伺う。</p> <p>3. 県、岩沼市、名取土地改良区は、陥没穴の発生とは無関係で責任はないので何ら対応できないとのことだが、それでよいのか市の認識を伺う。</p> <p>4. 令和7年3月12日の地権者の照会文書に対し、</p>	市長

(同)	7	沼田健一	<p>県は法的な責任はないと主張するも「現状に関する何らかの調査を行う」と回答している。何の調査なのか、市への報告はあったのか伺う。</p> <p>5. 岩沼市も当初の調査結果を踏まえて何らかの対応が必要であると認識していると捉えているが、具体的にどのような対応が必要と考えているのか伺う。</p> <p>6. 陥没穴のある土地が、雑種地への地目変更を行うことで固定資産税の減額にはならないのか伺う。</p>	市長
2	13	飯塚悦男	<p>1 ハナトピア岩沼のリニューアル等について</p> <p>1. ハナトピア岩沼のリニューアルについて</p> <p>(1) 費用の総額を伺う。</p> <p>(2) 昆虫ドーム(カブトムシ飼育)の建設費用を伺う。</p> <p>2. 運営について</p> <p>(1) 運営費用はどの程度と見込んでいるのか伺う。</p> <p>(2) 利用者負担などの収益はどの程度と見込んでいるのか伺う。</p> <p>(3) 昆虫ドームは行政としてやる仕事なのか認識を伺う。</p> <p>3. 仙台市の「ベッドタウン」とされる名取市、富谷市、利府町などの近隣自治体が、屋内の児童遊戯施設の整備に相次いで乗り出している。「ハナトピア岩沼」と競合するわけだが、特に名取市では「イオンモール株式会社」と包括連携協定を結び、「なとりぱーく」については、整備費など1億3,000万円をイオンモール側が負担し、「民設公営型」で運営している。市長の見解を伺う。</p> <p>4. 市民農園を有機農園として整備し、「親子農園」や「子育て農園」として貸し出してはどうか伺う。</p> <p>5. 農産加工施設を子育て世代や親子で利用できる環境として考えるべきではないか伺う。</p> <p>6. 近くには近年参拝客が多くなっている金蛇水神社がある。神社との連携、協力についての考えはあるのか伺う。</p>	市長
3	1	岡田みつえ	<p>1 幼保小・小中・中高といった移行期にある児童生徒の支援について</p> <p>小学校、中学校、高校への入学は、生活環境や人間関係、学習内容の大きな変化が伴う移行期であり、児童生徒が不安やストレスを感じやすい時期である。</p>	市長 教育長

(同)	1	岡田 みつえ	<p>いわゆる「小1の壁」、「中1ギャップ」などと呼ばれるこの問題に対し、岩沼市として現状をどのように把握し、学校・家庭・地域が連携して子どもを支える体制をどのように構築・強化していくのかを伺う。</p> <p>1. 「小1の壁」を打破する取組について</p> <p>(1) 小学生の朝の居場所づくりについて</p> <p>① こども家庭庁が去年9月から10月にかけて、民間の調査会社を通じてすべての自治体を対象に、朝の居場所に関するアンケート調査を行った。そこで、岩沼市の調査結果を伺う。</p> <p>② 岩沼市の早朝受入れに関する保護者のニーズをどのように把握しているか伺う。</p> <p>③ 放課後児童健全育成事業における、放課後児童クラブの開所時間を7時30分にしてはどうか伺う。</p> <p>(2) 岩沼市における入学児童の支援体制について伺う。</p> <p>① 幼稚園や保育園から小学校に上がったときに子どもたちが感じる様々なギャップを要因とする「小1プロブレム」について、学校での対応を伺う。</p> <p>② 「小1プロブレム」を最小限に抑えるためには家庭の協力が不可欠と思うが、入学説明会などでの保護者への周知方法を伺う。</p> <p>③ 5歳児から小学校1年生の2年間で学びや生活の基盤を育む取組に「架け橋プログラム」があるが、岩沼市における実施状況を伺う。</p> <p>2. 「中1ギャップ」を打破する取組について</p> <p>(1) 中学校の入学後の生徒の不登校・登校しぶり・情緒不安の発生状況について、どのように把握しているか伺う。</p> <p>(2) 「中1ギャップ」の対策には小中連携が必要だが、現行の支援体制と成果を伺う。</p> <p>(3) 「中1ギャップ」解消の取組の一つとして小中一貫教育の考え方がある。そこで、まずはモデルとして玉浦小学校・玉浦中学校で実施してはどうか伺う。</p> <p>3. 「高1クライシス」を打破する取組について</p> <p>(1) 支援を必要とする生徒の引継ぎについて現状</p>	市長 教育長
-----	---	--------	---	-----------

(同)	1	岡田 みつえ	<p>を伺う。</p> <p>(2) 高1クライシスを未然に防ぐための取組を伺う。</p> <p>(3) 高校生活を身近に感じるために、長期休業期間を利用して卒業生などから話を聞くなどの交流機会を設けてはどうか。</p> <p>4. 移行期における支援について</p> <p>(1) 児童・生徒への支援について</p> <p>① 入学直後の不安定な時期に児童・生徒を支えるための支援の実施状況を伺う。</p> <p>② 学習・生活面でのつまづきに対する個別支援の体制や実績を伺う。</p> <p>(2) 保護者への支援について</p> <p>① 子どもの学校生活などへの不安解消や相談体制など、保護者に対する支援について伺う。</p> <p>② 保護者との信頼関係を深めるための工夫と教育委員会の支援の方向性を伺う。</p> <p>(3) 小中学校の1年生担任など教職員への支援について</p> <p>① 環境の変化に悩む子どもに対する対応力を向上させるための研修の現状を伺う。</p> <p>② 教職員の負担軽減や相談支援体制について、教育委員会としてどのように対応しているか伺う。</p> <p>5. チーム担任制の取組について</p> <p>(1) 小学校で行っている教科担任制の現状を伺う。</p> <p>(2) 教員の働き方改革と児童・生徒の安心感の醸成を両立する手法として、小中学校でチーム担任制の導入が必要と考えるが見解を伺う。</p>	市長 教育長
4	5	植田 美枝子	<p>1 自治会・町内会の在り方について</p> <p>1. 自治会・町内会の現状について</p> <p>(1) 課題である加入率の低下、役員の担い手不足、高齢化、行政からの依頼増加などをどのように捉えているのか伺う。</p> <p>(2) 若い世代の参加促進をどのように考えているか伺う。</p> <p>(3) 市が自治会・町内会に期待する役割をどのように考えているか伺う。</p> <p>2. 自治会・町内会の意識づけについて</p>	市長

(同)	5	植 田 美枝子	<p>(1) 行政に参画する事で、自分も住みよいまちづくりをしているという喜びになるのではと思うが、考えを伺う。</p> <p>(2) 行政とパートナーとして活動することで、共にまちづくりをしているという意識につながると思うが、考えを伺う。</p> <p>(3) 自治会・町内会に役員手当として運営資金を補助してはどうか伺う。</p> <p>(4) 自治会活動の活性化のため、個々の自治会・町内会を組織化した連合会を作り、活動の活発化による地域活性化につなげてはどうか伺う。</p>	市 長
			<p>2 コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について</p> <p>1. 教育の現場である学校に、コミュニティ・スクールの導入についてヒアリングをしてはどうか伺う。</p> <p>2. コミュニティ・スクールを導入するメリット・デメリットをどのように捉えているのか伺う。</p> <p>3. コミュニティ・スクールを実施している他自治体の成果をどのように捉えているのか伺う。</p> <p>4. 教育の向上のため、コミュニティ・スクールを導入すべきと思うが考えを伺う。</p> <p>5. コミュニティ・スクール導入に当たっての課題をどのように捉えているか伺う。</p> <p>6. コミュニティ・スクールには子どもの教育という観点だけでなく、地方創生の観点からも学校という枠に子どもと保護者と地域住民をつなげていく素晴らしい取組と思うが見解を伺う。</p> <p>7. 大きな資金をかけずに持続可能なまちづくりにつながると思うが考えを伺う。</p>	市 長 教育長
5	2	西 塚 秀 市	<p>1 イングリッシュキャンプについて</p> <p>1. 返金問題に関する現在の状況について</p> <p>(1) 岩沼市での現在までの状況について伺う。</p> <p>(2) 全国で約 216 件、被害金 600 万円が返金されていない状況であるが、この中に岩沼市の該当者はいるのか伺う</p> <p>2. イングリッシュキャンプからの後援依頼について</p> <p>(1) 後援の対応はどの様にしていたのか 伺う。</p> <p>(2) 後援依頼はいつ頃から始まり、教育委員会としていつから後援しているのか伺う。</p>	教育長

(同)	2	西塚秀市	<p>(3) 最後の後援依頼はいつ頃だったのか伺う。</p> <p>(4) 現在、この団体からの後援に対してどのような対策をしているのか伺う。</p> <p>(5) 令和5年度以降に後援の申請もなく後援をしていたようだが、この件について当時の経緯を伺う。</p>	教育長
			<p>2 後援依頼への対応について</p> <p>1. 後援依頼に対する市及び教育委員会の対応について</p> <p>(1) これまでの各種団体等の後援依頼について、どのように対応してきたのか伺う。</p> <p>(2) 後援依頼団体について、後援するにふさわしい団体か確認しているのか伺う。</p> <p>2. 今後の後援依頼の対応について</p> <p>(1) 今後、岩沼市への後援依頼への対応はどの様に考えているのか伺う。</p> <p>(2) 後援依頼への対応についてのマニュアルなどはあるのか伺う。</p>	市長 教育長
			<p>3 防犯カメラについて</p> <p>1. 防犯カメラ補助金について</p> <p>(1) これまで防犯カメラ補助金を申請した団体の件数を伺う。</p> <p>(2) 令和5年、6年度それぞれの補助金額の総額を伺う。</p> <p>(3) 1団体当たりの平均補助額を伺う。</p> <p>(4) 各町内会等からは防犯カメラ補助金の申請における事前協議が難しいとの声が上がっているが、市としてはどの様に考えているのか伺う。</p> <p>(5) 今後もこの補助金を続けていくのか伺う。</p> <p>2. 今後の防犯カメラの設置について</p> <p>(1) 現状と課題について伺う。</p> <p>(2) 今後、防犯カメラを市が主体となって設置する事は出来ないか伺う。</p> <p>(3) 防犯カメラを設置したい企業、防犯団体、商店街団体、工業団体に自動販売機の売上を活用し防犯カメラを設置してはどうか伺う。</p>	市長
6	10	渡辺ふさ子	<p>1 加齢性難聴者への「聞こえ」の対策について</p> <p>1. 難聴と認知症について、国際アルツハイマー病会議で、ランセット国際委員会が「認知症の約35%は予防可能な9つの原因により起こると考えられる。その中で難聴(9%)が最大の危険因子である」</p>	市長

<p>(同)</p>	<p>10</p>	<p>渡辺 ふさ子</p>	<p>と、認知症における最大のリスク要因が難聴であることを、2017年と2020年の二度にわたり指摘している。</p> <p>難聴と認知症の関係についての認識を伺う。</p> <p>2. 難聴高齢者に関する自治体調査について</p> <p>(1) 厚労省が自治体における難聴高齢者把握の取組や補聴器利用に関する施策等の実態把握の悉皆調査を行い、2024年3月に報告されている。市として回答をしたのか伺う。</p> <p>(2) 調査内容はチェックリストとして「聴力検診の状況」、「難聴高齢者の把握状況」、「難聴高齢者への補聴器購入に対する公的助成制度」、「その他」となっている。回答している場合、どのように回答したのか伺う。</p> <p>3. 相模原市や山形市では「保険者機能強化推進交付金」を活用し、全額国負担の補聴器購入補助制度を実現している。市としてこの交付金の活用を検討してきたのか伺う。</p> <p>4. 今年度から「介護保険保険者努力支援交付金」の評価指標中に「難聴高齢者の早期発見・早期介入に係る取組を行っているか」という項目が追加された。交付金の活用を検討してはどうか伺う。</p> <p>5. これまで加齢性難聴者への補聴器購入補助について質問し、令和4年第3回定例会では「認知症初期集中支援チームに専門職として言語聴覚士が加わりましたことから、そちらの協力も得まして加齢性難聴の方の支援について研究してまいりたいと考えております。」と答弁があり、令和5年第4回定例会には「加齢性難聴で生活に困っているという相談はありませんが、言語聴覚士の専門的意見を踏まえて、コミュニケーションの工夫について多職種で検討し、対応する体制を整えております。」や「御家族や周囲の方が向かい合ってゆっくり話すとか、静かな環境や話し方の工夫をしていただくというのは大切ですので、そういったコミュニケーションの工夫なども御紹介しているところ。」との答弁があった。</p> <p>今年は新日本婦人の会岩沼支部から要望も出され、また今定例会には全日本年金者組合宮城県本部から陳情書も出されている。</p> <p>補聴器購入補助を実施している自治体は2025年</p>	<p>市長</p>
------------	-----------	---------------	--	-----------

(同)	10	渡辺 ふさ子	<p>1月時点で、東京都と381市区町村に広がり（年金者組合大阪府本部調べ）、宮城県でも富谷市、東松島市、名取市、大郷町が実施している。</p> <p>岩沼市でも加齢による難聴者の補聴器購入に対する補助制度を創設してはどうか、改めて伺う。</p> <p>6. 特定検診の項目に「聴力」検査を組み入れてはどうか伺う。</p> <p>7. 高額な補聴器を購入していても、日常生活で馴染めずに使いこなせない方もいる。難聴高齢者を把握し、講習会等の場を設けてはどうか伺う。</p>	市長
			<p>2 ジェンダー平等について</p> <p>1. 性教育は人権教育との認識について</p> <p>(1) 国連の国際機関などが提唱する基本的人権「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」（略してSRHR＝意味は、性と生殖に関する健康と権利）の考え方がある。これは、自らの性の在り方をはじめ、妊娠・出産するか、いつ産むかなど、自分の体のことを自分で決める権利を指すもので、その人がその人らしく生きる権利といえる。そうした意味からも、性教育は人権教育であり、性教育を学ぶことは若者にとっての権利と考えるが、見解を伺う。</p> <p>(2) 「性に関する指導」の現状について、小中学校の児童生徒に行っている「性に関する指導」について、どのような教材を用いて、どのように指導しているのか現状を伺う。</p> <p>(3) 今後の取組について、産婦人科医や助産師など、外部講師による性教育についてどう考えるか、見解を伺う。</p> <p>2. 生理の貧困対策について</p> <p>生理の問題は、貧困ゆえに対応が求められるというだけでなく、ジェンダー平等の観点から個人の自己責任ではない対策が求められる。とりわけ、初潮を迎える時期からの思春期の女の子に対して、学校でのきめ細やかな対応は非常に重要だと考える。10代の生理は不規則で、生理用品を携帯していない時に生理がはじまることも多々ある。以前の質問で保健室に取りに行けばよいとの答弁であったが、10分間の休憩時間での往復は間に合わない場合もあるのではないか。</p> <p>女子生徒の健康を守るとともに、生理の心配な</p>	市長 教育長

(同)	10	渡辺ふさ子	<p>く安心して学習し、学校生活を送るためにも、生理用品のトイレ配備を再度求める。見解を伺う。</p> <p>3. 公共施設のトイレに生理用品を配備することは、市民や訪れる方々に安心と岩沼市が人権を大切にすまちと認識いただけるのではないか。見解を伺う。</p>	市長 教育長
			<p>3 学校給食費の無償化について</p> <p>1. 女性団体や多くの保護者から学校給食費の無償化を求める署名が日々寄せられている。あきらめず、何度でも取り上げて欲しいと背中を押される。物価高騰は収まらず、暮らしを直撃している。主食であるはずの米は昨年の倍以上の値をつけたままである。生活保護の方からは保護費では米が買えない。オートミールや豆腐、納豆を食べているとの悲痛な声も届いている。</p> <p>学校給食は、文部科学省が「食育」と位置づけし教育の一環となっている。美味しくて温かい、自校方式の岩沼の給食は「食育」そのもので、子どもたちの笑顔と健やかな成長を補償している。安心して子どもを育てることができる市として、再度、学校給食費の無償化を求めたい。見解を伺う。</p>	市長 教育長
7	6	佐藤剛太	<p>1 公共施設の維持・管理に対する今後の考えについて</p> <p>1. 岩沼市役所庁舎について</p> <p>(1) 1974年に建設されてから、50年以上が経過して老朽化などの課題を抱えるが、市役所庁舎の今後の維持・管理に対して市の考えを伺う。</p> <p>(2) 物価高の影響などで財政的に庁舎の建て替えは現状では非常に厳しいが、時間が経過すればするほど、庁舎の老朽化が進行していく中で将来的には建て替えが必要になると考える。</p> <p>中長期計画として財源や建て替え・改修などを含めて、将来の市役所庁舎の在り方について検討を行っていくことが必要と考えるが見解を伺う。</p> <p>2. 市営住宅について</p> <p>(1) 震災後に災害公営住宅が玉浦西地区に整備されて、市全体の公営住宅の戸数は466戸となり、震災前の256戸と比較すると約1.8倍に増加した。現状は、入居率も高くなっている。しかし、将来的には人口減少・少子高齢化・世帯数減少の</p>	市長 教育長

<p>(同)</p>	<p>6</p>	<p>佐藤 剛太</p>	<p>進行に伴い住宅ストックの余剰が増えていくと考えるが見解を伺う。</p> <p>(2) 老朽化について</p> <p>① 亀塚第2住宅、亀塚第3住宅は築50年以上経過している。県では、県営住宅の構造別用途廃止時期の設定を竣工後70年としており、今後耐用年数を迎える県営住宅については、適切に維持管理しつつ、地域の実情に応じた公営住宅の需給バランスや建物・入居状況等を勘案しながら、用途廃止の可否の検討を行うとしているが、このような県の取組に対して、本市の市営住宅の構造別用途廃止時期について見解を伺う。</p> <p>② 市においても将来的には構造別用途廃止時期を設定して、県の基準と同様に期間が経過した市営住宅を廃止して、既存の市営住宅に集約移転を行い、市有地として新たな活用を検討することができると思うが見解を伺う。</p> <p>(3) 新たな活用について</p> <p>本市の市営住宅の一部は駅周辺に所在し、立地環境も非常に良く、通学・通勤の利便性がとても高いため、今後は、子育て世代向けにリノベーションし、市営住宅を活用して子育て世代の世帯を集めることができると思うが見解を伺う。</p> <p>3. 学校教育系施設について</p> <p>(1) 老朽化について</p> <p>① 本市の公共建築物で学校教育系施設が最も多く33.4%を占めている。学校教育系施設は、昭和50年代から60年代に建設され、建設後40年を経過したものが多く、施設の老朽化が進行している。最も古い施設は昭和38年に建設された岩沼北中体育館であり、築60年以上になる。市全体の学校施設の今後の維持・管理に対して市の考えを伺う。</p> <p>② 今後、改修等工事が行われる予定の学校と工事内容を伺う。</p> <p>(2) 市内の児童生徒数について</p> <p>① 児童生徒数が減少していることについて伺う。</p>	<p>市長 教育長</p>
------------	----------	--------------	---	-------------------

<p>(同)</p>	<p>6</p>	<p>佐藤 剛太</p>	<p>ア 教育長の見解を伺う。 イ 市長の見解を伺う。 ② 将来の児童生徒数の推移をどう考えているのか伺う。 ア 市内全体について伺う。 イ 岩沼市内小学校区別(岩沼小・玉浦小・岩沼西小・岩沼南小)に伺う。 (3) 将来的な学区や統合について ① 児童生徒数の減少が進行していくと将来的に学区の見直しや学校の統合の検討が必要になると考えるが見解を伺う。 ② 将来的に児童生徒数の減少が進行していく中で、市のまちづくりとの整合性を図り、さらに効率的なまちづくりを考えるためには、学校教育系施設の複合化や統合を検討することも必要ではないか伺う。</p>	<p>市長 教育長</p>
			<p>2 防犯対策について 1. 防犯カメラの新設について (1) 新設する10台の防犯カメラの設置場所について選定方法を伺う。 (2) 設置場所は公表するのか伺う。 (3) 設置時期と設置後の管理方法を伺う。 (4) 設置者等、管理責任者は誰になるのか伺う。 2. 市民に対しての防犯対策について伺う。 (1) これまで市内に市が設置した防犯カメラの台数・場所を伺う。 (2) 管理や更新について伺う。 (3) 防犯カメラ以外でこれまで行ってきた防犯対策について伺う。 (4) 防犯カメラ以外で今後行う予定の防犯対策について伺う。</p>	<p>市長</p>
<p>8</p>	<p>11</p>	<p>佐藤 一郎</p>	<p>1 岩沼の魅力発信の取組について 1. 今年3月に竹駒神社馬事博物館にある伊達政宗騎馬石膏像が岩沼市有形文化財に指定され、4月12日から5月11日まで特別公開を行い、好評を得た。今後どのように活用していくのか伺う。 2. 今年は巳年でもあり、初詣から金蛇水神社には多くの参拝客で連日行列ができていた。今後、観光施策における連携などを考えているのか伺う。 3. 仙台空港を出発する市民バスの便が、朝2便と夕方2便となったが、仙台空港を使って岩沼に来る</p>	<p>市長 教育長</p>

<p>(同)</p>	<p>1 1</p>	<p>佐藤 一郎</p>	<p>旅行客のためにも、日中運行が必要と思うが見解を伺う。</p> <p>4. 近隣市町の連携による観光・物産振興について、どのように取り組むのか伺う。</p> <p>5. これまでも2市2町で連携したパンフレットを作成していたが、今後どのように取り組むのか伺う。</p> <p>6. シティプロモーションの取組について伺う。 (1) シティプロモーションでの岩沼の紹介、移住・定住、魅力発信の取組状況について伺う。 (2) ホームページ、SNS等の取組について、ライン、インスタグラム、ユーチューブなどの接続数(フォロワー数)の推移状況について伺う。</p> <p>7. 市内には自慢できる名勝、竹駒神社、金蛇水神社、二木の松、特産品では米、長岡のりんご、林のクールボジャなどがある。岩沼市の魅力を発信することについて、市長の見解を伺う。</p>	<p>市長 教育長</p>
			<p>2 職員の採用について</p> <p>1. 全国的に公務員のなり手不足があるが、本市の職員採用状況について、過去3年の応募状況及び採用状況について伺う。</p> <p>2. 最近では新卒採用者の採用後3年以内の離職率が高いと聞くが、岩沼市の状況を伺う。</p> <p>3. 最近様々な職場で若者の離職率が高い傾向となっているが、その要因について見解を伺う。</p> <p>4. 雇用形態の改革やワークライフバランスの推進をどのように行うのか考えを伺う。</p> <p>5. 待遇改善や職場環境改善対策について、どのような取組を考えているのか伺う。</p> <p>6. 市職員採用や職員定着率について、市長の見解を伺う。</p>	<p>市長</p>
<p>9</p>	<p>4</p>	<p>高梨 明美</p>	<p>1 高齢者支援について</p> <p>1. デジタルを活用したフレイル予防について 家庭用ゲーム機器やモバイル端末を使い対戦するゲームを、競技とみなして腕前を競う「eスポーツ」がある。エレクトロニック・スポーツの略で、指先や脳を使い座って行うため、体への負担も軽減され社会参加を促すものとされており、高齢者世代が気軽に組み組めて、世代間交流の場となるなど、健康増進スポーツとして注目されている。</p>	<p>市長</p>

(同)	4	高梨明美	<p>(1) 「eスポーツ」に対する、本市の見解を伺う。</p> <p>(2) 高齢者のフレイル予防と健康づくりのため、介護予防の取組として「eスポーツ」を活用してはどうか伺う。</p> <p>2. 難聴支援について</p> <p>(1) ヒアリングフレイル（聴覚機能の衰え）を放置すると、周囲との関りが減ることにより孤立し、認知症やうつ病のリスクを高めるとの指摘があることから、早期発見が重要と考える。</p> <p>① 周知啓発の取組を伺う。</p> <p>② 令和6年第3回定例会の一般質問でフレイルチェックの質問項目にヒアリングフレイルチェックの項目を加えることを提案したが、進捗状況を伺う。</p> <p>(2) 高齢化が進む中で、高齢難聴についての周囲の理解や配慮が必要と考える。聴力が低下した高齢者などが円滑に窓口相談などができるための支援策について伺う。</p> <p>① 現在の公共施設の窓口における耳が聞こえにくい方への支援策を伺う。</p> <p>② 音のバリアフリーの促進として公共施設の窓口に「軟骨伝導イヤホン」を設置してはどうか伺う。</p> <p>3. 肺炎予防対策について</p> <p>(1) 現在の予防対策の取組を伺う。</p> <p>(2) RSウイルス感染症対策について</p> <p>乳幼児の呼吸器疾患の原因として知られているが、高齢者が感染すると肺炎を引き起こす要因の一つとの報告がされている。</p> <p>① RSウイルス感染症に対する見解を伺う。</p> <p>② 予防対策のための知識の普及が必要ではないか伺う。</p> <p>③ RSウイルス感染症の治療法については特効薬はなく、対症療法ということになっている。そういったことからワクチンが開発され、優先度の高いワクチンと言われている。高齢者を対象とした接種費用の助成をしてはどうか伺う。</p>	市長
			<p>2 子ども・子育て支援について</p> <p>1. 搾乳マークの掲示について</p>	市長 教育長

<p>(同)</p>	<p>4</p>	<p>高 梨 明 美</p>	<p>低出生体重児等は吸啜力が未発達だったり、治療のため直接授乳できず、育児において搾乳を必要とする場合がある。</p> <p>母親が安心して授乳室を利用できるよう、搾乳マークを掲示してはどうか伺う。</p> <p>2. 聴覚情報処理障害（APD）及び聞き取り困難症（LiD）について</p> <p>APD、LiDは、純音聴力検査で正常であるにもかかわらず、騒がしい場所、複数人が会話する場面、電話応対や授業中などでの聞き取りが難しいとされている。脳の聴覚情報処理や認知などの問題で聞き返しや聞き間違いが生じ、聞く気がないと誤解されることもある。APDの発症率は、日本で約1%、推定120万人とされ、決して珍しい障害ではないが、診断基準や治療方法が確立されていないため、APD、LiD当事者は適切な配慮を受けられていない現状である。そこで本市の支援の取組を伺う。</p> <p>(1) 本市におけるAPD、LiDに対する見解を伺う。</p> <p>(2) 学校教育現場での適切な支援について、日本医療研究開発機構のAPD、LiD診断と支援の手引では、学校全体でAPDへの理解を深めるため、教員研修を通じて字幕表示や音声文字変換アプリ、補聴援助システムの導入、環境整備を推奨している。本市においても対応を強化すべきではないか伺う。</p> <p>(3) APD、LiDを抱える子どもや家族が気軽に相談できる窓口の設置や、支援体制が必要と思うが、現状を伺う。</p> <p>(4) APD、LiDの社会的認知度向上と福祉的支援のため、専門の検査を実施する医療機関の周知、行政窓口でのパンフレットの設置、講演会等の開催を検討してはどうか伺う。</p> <p>(5) 聴力が正常値でも、医師が必要と判断した場合の補聴器購入費用助成制度を導入してはどうか伺う。</p> <p>3. ヤングケアラー支援について</p> <p>令和6年6月12日に、子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律において、子ども・若者育成支援推進法が改正され、家族の介護その他の日常</p>	<p>市 長 教 育 長</p>
------------	----------	----------------	--	----------------------

(同)	4	高梨明美	<p>生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども、若者をヤングケアラーと定義をして、国、地方公共団体等が各種支援に努めるべき対象として明記された。また、ヤングケアラーのうち、児童福祉法に規定する要保護児童等に対して、子ども・若者支援地域協議会と要保護児童対策地域協議会が協同して効果的に支援を行えるよう、各調整機関同士が連携を図るよう努めることなど、自治体の役割も明確化された。そこで伺う。</p> <p>(1) 早期発見・把握するための取組と把握状況を伺う。</p> <p>(2) 支援体制を伺う。</p> <p>(3) 国は、「多機関・多職種連携によるヤングケアラー支援マニュアル」を示すとともに、ヤングケアラー支援体制強化事業を実施しており、都道府県や市町村の様々な取組を後押ししている。関係機関職員研修等の実施、ヤングケアラーコーディネーターの配置やピアサポート・オンラインサロン等の支援事業を活用し、支援体制の強化を図ってはどうか伺う。</p> <p>(4) ヤングケアラーは、自身を当事者と認識していない場合が多く、周囲の大人も深刻な状況に気づきにくい実態がある。社会的認知度の向上、理解促進を図るため、ホームページや広報、SNS等で周知啓発すべきではないか伺う。</p>	市長 教育長
10	15	長田忠広	<p>1 教育行政について</p> <p>1. 自立した学習者の育成について</p> <p>令和7年4月に「自立した学習者の育成を目指して・学力向上の着実な推進に向けて」と題して岩沼市の教育施策をまとめた。そこで伺う。</p> <p>(1) 教育長が考える「自立した学習者の育成」について伺う。</p> <p>(2) 「岩沼市の教育施策～自立した学習者の育成を目指して～」について、Vision1からVision4の4項目から取組を推進することになる。そこで伺う。</p> <p>① Vision1「主体的に学ぶ力を育てる学校教育」について</p> <p>ア 個別最適な学びの取組について、これまで取り組んできた施策と成果を伺う。</p> <p>イ 児童生徒への支援として岩沼学び塾があ</p>	市長 教育長

<p>(同)</p>	<p>15</p>	<p>長 田 忠 広</p>	<p>る。新規事業として小学生対象の学び塾を行うが、具体的な取組内容を伺う。</p> <p>ウ AIドリルを今年度小中学校に導入するが、具体的な内容と期待するものを伺う。</p> <p>② Vision 2「誰一人として取り残さない学び」について</p> <p>ア 今年度岩沼中学校と玉浦中学校に配置された登校支援専門員の活動内容を伺う。</p> <p>イ 不登校の低年齢化を考慮すると登校支援専門員を小学校に配置することも必要と思うが見解を伺う。</p> <p>ウ 心のケアハウス「あいるーむ」について、勤労者活動センターでは活動スペースが狭く、移転が必要と思うが見解を伺う。</p> <p>エ 不登校・引きこもりサポートネットワーク検討会の活動内容を伺う。</p> <p>オ 新型コロナの影響で「非認知能力」が育たなかった傾向があると思う。そのことと小学生の不登校増加をどのように捉えているか伺う。</p> <p>カ 令和2年3月に宮城県教育委員会が作成した「不登校児童生徒への支援の在り方について」で個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援の推進がある。そこで、不登校児童生徒の個別支援計画の策定が必要と考えるが、見解を伺う。</p> <p>③ Vision 4「家庭・地域との協働による教育力向上」について</p> <p>コミュニティースクールは、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組む仕組みである。今年度は、玉浦小・中学校で推進することになる。そこで、具体的な取組を伺う。</p> <p>(3) 「教育的課題と対応策」について</p> <p>① 教育課題① 不登校の出現率について</p> <p>ア 魅力ある・行きたくなる学校づくりをどのように進めていくのか伺う。</p> <p>イ 県で行っている「みやぎ魅力ある・行きたくなる学校づくり推進事業」で、今年度の推進地区は塩竈市、石巻市、七ヶ浜町、大崎市の4市町である。重要な事業なので、岩沼市</p>	<p>市 長 教育長</p>
------------	-----------	----------------	---	--------------------

<p>(同)</p>	<p>15</p>	<p>長 田 忠 広</p>	<p>も指定地区になるよう対応してはどうか伺う。</p> <p>② 教育課題② 学力の向上について</p> <p>ア 学力向上推進委員会を新設するが、具体的な取組と目標を伺う。</p> <p>イ 「知識・技能については伸張の余地があり、今後は学力の三要素全てにおいて全国平均以上を目指します。」とあるが、具体的にどのように進めていくか伺う。</p> <p>(4) 「保護者の皆様へ（お願い）」について</p> <p>① 「規則正しい生活習慣づくり」「学習に向かう環境づくり」など5項目あるが、どのような期待をもって制定したのか伺う。</p> <p>② 保護者との共有が必要である。そこで、5項目の主旨をどのように説明していくのか伺う。</p> <p>2. 防災教育について</p> <p>令和7年度岩沼市教育目標に「自ら危険を予測し、回避する力の育成を図る防災教育の推進」とある。そこで伺う。</p> <p>(1) 今年度の小中学校での防災教育の取組を伺う。</p> <p>(2) マイ・タイムラインの作成について、今年度の小中学校の取組を伺う。</p> <p>(3) 6月29日に岩沼市防災訓練が実施される。小中学生の防災意識向上のため、小中学生の参加を組み込んではどうか伺う。</p> <p>3. 魅力ある教育環境づくりについて</p> <p>令和7年度岩沼市教育目標に「児童生徒一人ひとりに対応できるICT教育環境整備の推進」とある。そこで伺う。</p> <p>(1) これまでの取組と成果を伺う。</p> <p>(2) 今後の方向性を伺う。</p> <p>(3) タブレット更新の方向性を伺う。</p> <p>(4) タブレットには、児童・生徒の氏名や住所、写真、ネットワークのパスワードといった個人情報をはじめとする様々な情報が保存されている可能性があり、更新時等には対策が必要と考えるが、どのように対応するか伺う。</p> <p>4. 教育支援パッケージについて</p> <p>令和6年第5回定例会で教育支援パッケージに</p>	<p>市 長 教 育 長</p>
------------	-----------	----------------	--	----------------------

(同)	15	長 田 忠 広	<p>ついて質問した。市長は様々な課題を示したうえで「おっしゃっていることはほぼ100%できることなので、ぜひ研究をさせていただきたいなというふうに思います。」との答弁だった。そこで市長が示した課題に対しての教育委員会の取組を伺う。</p> <p>(1) 「まずは成績の向上をしっかりと、点数の向上をしっかりとしていただかなければいけない、結果を残していただかないと、効果を検証しないものに対して予算を措置するというのは税金を無駄遣いしていることにもつながりかねないというふうに言われかねないので、そこはしっかりと効果を皆さんに示していただきたい。」との答弁があったが、どのように対応するか伺う。</p> <p>(2) 「今やっていることの中で、教育支援パッケージの中に入れられるものがあると思う。今あるものをパッケージとして示していただいて、外に情報発信をしていただいて、それによって岩沼の学校に通いたい、通いつけたいと、小さい頃から、幼稚園・保育所から小学校に上がって中学校に上がって育てていきたいと思えるような状況をしっかりと情報提供していただきたいと思えます。」との答弁があったが、どのように対応するか伺う。</p> <p>(3) 「こども・子育て支援パッケージ」と「教育支援パッケージ」の一体化が定住促進にもつながると思う。そこで改めて教育支援パッケージの作成が必要と思うが見解を伺う。</p>	市 長 教育長
11	9	布 田 恵 美	<p>1 学校水泳授業の現状と課題について</p> <p>1. プール学習について</p> <p>これまでも学校水泳授業の現状について取り上げてきた(令和5年第3回定例会)。様々な課題を抱えており、その現状は変化しつつある。中でもプール施設の老朽化や維持管理コストの増加、教員の水泳指導に対する負担、衛生管理や安全管理への懸念などが課題として挙げられている。</p> <p>(1) 市内の学校プール老朽化対策と管理について</p> <p>① 児童生徒数が減少している今、各学校ごとのプール整備は教育予算の中で負担が大きくなっているのではないかと。</p> <p>② 大切な水泳の授業であるが、限られた季節の限られた時間数での実施であり、費用対効</p>	市 長 教育長

(同)	9	布田恵美	<p>果を考慮すると何らかの対応策を講じていくべきではないか。</p> <p>③ プール学習時期に備えてのプール清掃や日々の水質管理は教員が行なっていると聞かすが、負担となっているのではないか。</p> <p>(2) 泳力指導について</p> <p>① 子どもの泳力は、海や川で水に親しむ機会が減り、水泳を習っている子と習っていない子の差が広がっていると聞く。授業の中で、習熟度別に指導対応が問題なく及んでいるのか。</p> <p>② 現状の泳力指導環境が教員の負担を増しているのではないか。</p> <p>③ スイミングスクールなどの専門指導員を自校プールに招いてモデル事業を実施してはどうか。</p> <p>(3) 今後の授業の質の向上やコスト削減などについて検証する、PTAを交えての会議を立ち上げるべきと考えるが見解を伺う。</p>	市長 教育長
			<p>2 公共施設の利便性向上について</p> <p>岩沼市民会館リハーサル室について</p> <p>多くの市民にとって芸術活動、生涯学習活動、創作活動の拠点となっている市民会館内にはリハーサル室があり、防音設備が整っていることから、楽器演奏や歌の練習、ダンス練習などに利用されている方も多い。</p> <p>1. 現在の利用規定の中では、リハーサル室は、市民会館区分の貸館施設となっており、利用申込は使用日の10ヶ月前から10日前となっている。そのことについて、利用者から見直し要望の声は届いていないか。</p> <p>2. リハーサル室は、貸し出すに当たっての事前打ち合わせも不要となっていることから、柔軟な貸し出し対応も取れるのではないか。</p> <p>3. 貸し出しに対して当然ルールも必要なことだが、壁面に鏡が設置されているスペースが必要で利用したい、という市民もある。使用希望日10日前よりも近い日程であっても、要件を満たせば貸し出しを認めてはどうか。</p>	市長 教育長
12	3	大村晃一	<p>1 環境への取組について</p> <p>1. ゼロカーボンシティ宣言について</p>	市長

<p>(同)</p>	<p>3</p>	<p>大 村 晃 一</p>	<p>(1) 令和3年6月に「ゼロカーボンシティ」宣言を行っているが、宣言した目的を伺う。</p> <p>(2) 宣言後に取組を行ったことで、宣言前と比べて変化が見られたものはあったのか伺う。</p> <p>2. 岩沼市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について</p> <p>(1) 令和5年3月に策定されたが、これまでの目標に対する取組状況を伺う。</p> <p>(2) 目標達成に向けた取組として、基本方針や基本施策を打ち出しているが、ほとんどが促進と記載されている。今後どのようなことを行っていくのか伺う。</p> <p>3. 岩沼市環境基本計画について</p> <p>(1) 計画期間を平成28年度からの10年間とし、目標年次は今年度までとしているが、ここまでの総括的な評価を伺う。</p> <p>(2) 次年度以降の計画策定などは、どのように進めていくのか伺う。</p> <p>(3) 企業版ふるさと納税を活用した取組を考えてみてはどうか伺う。</p> <p>4. 「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト」について</p> <p>(1) 宮城県レッドリストを本市としてどのように受け止めているのか伺う。</p> <p>(2) リスト中「希少な植物群落(植生)の一覧(群落複合)」に、本市としては唯一、三色吉七ツ堤の池沼植物群落が載っており、壊滅危機のカテゴリーに分類され、対策を講じなければ群落は徐々に悪化して壊滅するとなっている。次年度以降の岩沼市環境基本計画にこのような場所を守る取組を盛り込んでどうか伺う。</p> <p>5. 岩沼市環境基本条例の見直しも必要ではないか、認識を伺う。</p>	<p>市 長</p>
			<p>2 行政のデジタル活用について</p> <p>1. 人々が様々な活動を行うことのできるインターネット上の3次元の仮想空間、メタバース活用について</p> <p>(1) 年々地方創生のためにメタバースを活用する自治体も増えて来ているが、本市の認識を伺う。</p> <p>(2) 令和6年第3回定例会の一般質問で、メタバースとも関連があるNFT(Non-Fung</p>	<p>市 長</p>

<p>(同)</p>	<p>3</p>	<p>大村 晃一</p>	<p>ible Token、非代替性トークン)を用いた地方創生について質問を行ったが、執行部からは、「これからまだまだ研究するべきところはあるが、関係人口の創出にもつながるところがあるので、有効なPRツールであると考えている。他の自治体のNFTと地方創生を組み合わせた取組事例について、市としても注目しているところです。」との答弁だった。その後の見識を伺う。</p> <p>(3) ふるさと納税や市の魅力や観光PRなどの情報発信ツールのひとつとして、本市も地方創生にメタバースを活用してはどうか伺う。</p> <p>2. デジタル身分証アプリ (ポケットサイン) について</p> <p>(1) 令和6年4月1日に宮城県が、マイナンバーカードを活用したデジタル身分証アプリ(ポケットサイン)によるサービスの本格運用を開始し、本市は紐づける形で令和7年3月1日より「岩沼市からのお知らせ」の試験運用が開始となり、今定例会初日の市政報告では、「有効性が非常に高いと考えられることから、更なる普及促進に努めていく」との報告もあったが、目指す登録者数などはあるのか伺う。</p> <p>(2) インフラ通報アプリについて</p> <p>① 県からの情報提供の流れについて伺う。</p> <p>② 市が管理対象となる土地や公園内の不具合を始め、上下水道関連の異常、不法投棄なども通報できる市独自のアプリを作成し紐づけしてはどうか伺う。</p> <p>(3) みやぎ防災アプリの活用について</p> <p>① 6月29日の岩沼市防災訓練での活用方法を伺う。</p> <p>② 各町内会、自治会独自の防災訓練の場での活用や、防災士、消防団など、地域防災へ関わる人達へも登録を呼びかけ、利用者を増やしてはどうか伺う。</p> <p>(4) 市独自の割増商品券事業などを行う場合に活用してはどうか伺う。</p> <p>(5) 公共施設の利用登録などに役立ててはどうか伺う。</p>	<p>市長</p>
------------	----------	--------------	---	-----------